

国語

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、省略した箇所があります。)

ということ、ようやく考えるということについて深く思考していきたいと思います。

改めて哲学のプロセスを思い起こしていただきたいのですが、まず最初は疑うことから始まりました。常識や思い込みを疑うのです。そうして初めて私たちは考え始めます。逆にいうと、普段私たちは考えずに過ごしているのです。

何を見ても、何をアツカウにしても、その対象を直接受け入れるか、素通りするかです。いちいち疑ってませんよね？ だから、考えるためには、対象の前で立ち止まり、その周りを環のようにぐるぐる巡る必要があるのです。

これはそのまま受け止めたり、通り過ぎたりしそうなった時、あえて立ち止まってぐるぐる見回してみたり、立ち返ったりする時に使う言葉です。頭の中でそうした行為をする時、私たちは初めて考えるのです。だから考えるとは、本当は「1」

なのではないでしょうか。

忙しい日常の中で、私たちは「1」

ことを忘れてしまっているのです。小さい頃は自然にやっていたはずなのに。きれいな花を見つけたら、わざわざそこに戻って、キョロキョロと見つめる。親が手を引つ張って「はい、もう行こうね」というまで

離れない。誰もそんな想い出があると思います。人によって頻度は様々でしょうが。

あるいは、親にもよるでしょうね。こういう時、子どもの好奇心に任せてじっと見守ることができればいいのですが、つい忙しくて手を引いてしまいます。そうすると、子どもは考える機会を逃してしまうのです。

私たちの周りには考える材料がたくさんあります。子どもにとって自然はまさに考える素材のホウコです。その意味では、「1」という表現にはもう一つの意味を持たせることもできそうです。自然環境に返るといいう意味です。

人工的なものは、生活を便利にするために作られたものです。だからできるだけ考えなくていいように設計されています。誰でも楽に使えるというのはそういうことです。しかし、それでは考える機会が失われてしまいます。

そんな時、自然に返ると、B アナログな道具を使うと、私たちは必然的に考えざるを得なくなるのです。無人島での生活はその極致でしょう。考えないと生きて行けません。ありあわせのもので、なんとかしのがないといけないのですから。スマホが便利なツールであることは間違いないですが、その意味で考える力をウバっていることもまたたしかなのです。

スマホに目をウバわれて、きれいな花の前で立ち止まることを忘れてしまわないようにしなければなりません。それは考えることを忘れてしまうということを意味するのですから。

そんなふうになると、きちんと見えますという人がいます。歩きスマホしてませんと。たしかにそうかもしれませんが、**C**、私がいいたいのは、そういうことじゃないんですね。みんな物を見ているようで、本当は見えていないといたいのです。

いや、見ているかもしれないけれど、それはあくまで表面的な部分だけです。かつて近代ドイツの哲学者カントは、物事には人間の知り得ない側面があつて、それを「物自体」と名付けました。人間は五感で物をとらえるわけですが、言い換えると五感でとらえられないハニイはわからないということです。それが物自体にはなりません。

でも、私はそれでも人間は見えない物を見ることができると思っています。それは想像をするということです。これについて哲学者の鷺田清一さんは、著書『想像のレッスン』（ちくま文庫、二〇一九年）の中で、「意識的に視界をこじ開けるということをしていないでは、世界が見えるようにはならない」と書かれています。

見えない物を見るのは大変なのです。では、どうすれば物の本当の姿が見えるのか？ 鷺田さんがいうように、それはその対象の背景にあるものを想像することによってなのでしょう。

具体的には、色んなことを知ることです。それは可能になります。想像をするといっても、その元になる素材がなければ、不可能です。まったく知らない物を想像する時、私たちはすでに知っている何かになぞらえたり、あるいはそれをアレンジしたりしてイメージを構成するはずです。

だからその元になる素材が多ければ多いほど、想像がしやすくなるのです。それは読書やインターネットでも集めることができますが、一番いいのは実体験でしょう。自分が身体で経験したことはなかなか忘れないものです。事細かに覚えていきますから、想像する際に大いに役立つのです。

単に見ただけのものであつても、**図鑑**で見たのと実際に道端で見たのでは大違いです。それを見たシーン、その時の気持ち、すべてが素材になるからです。だからできるだけ外を歩くときはものをキョロキョロ見た方がいいと思います。そしてなんでも機会があれば、やってみる。それが想像にも役立つのです。

もともと、素材が豊富にあるからといって、それにビレイして^⑤どんなアレンジができるかというと、必ずしもそうではありません。やはりそこにはアレンジのセンスみたいなものが要求されてくるのです。それは料理と同じです。料理もレパトリーをたくさん知っていれば、少しアレンジするだけで創作料理ができそうです。

でも、あまり料理を知らなくても、面白い創作をする人はいるものです。なんでもそうですが、それはセンスなのです。だから想像にもセンスが求められます。そういうと身も蓋もないように聞こえるかもしれませんが、これはアートセンスと異なり、誰でもトレーニング次第で身につけることが可能です。

それは似てるものを発見するトレーニングです。日ごろから、何に似てるか、誰に似てるかといったことを探すようにしていれば、自ずと想像するセンスが磨かれていきます。違うものを同じように見るには、想像力がいらいます。そこがポイントなのです。ある時気づいたのですが、話し方でも、絵でも、真似がうまい人は想像力もあります。私もよく中高生の頃、先生の真似をしてみんなを笑わせたのですが、想像力も高い方でした。ここには相関性があるのです。

（出典 小川仁志『中高生のための哲学入門―「大人」になる君へ―』ミネルヴァ書房による）

問一 〰〰〰線①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 〰〰〰A～Cに入る言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ でも ウ だから エ けっして オ あるいは カ ところで

問三 〰〰〰1には「かんがえる」という言葉の当て字が入ります。筆者の主張をふまえて、空欄をうめなさい。

問四 〰〰〰線2「子どもは考える機会を逃してしまう」とありますが、なぜですか。四十五字以内で説明しなさい。（句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。）

問五 ―線3「そういうこと」とありますが、その内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア できるだけ考えなくて済むように設計することで、誰でも楽に使えるようにすること。

イ 便利な道具を使うことに慣れて楽をすることで、考える機会を失ってしまっているということ。

ウ 生活を便利にするために、できるだけ考えなくていいように作られているということ。

エ スマホのことで頭がいっぱいで、きれいな花に気づけなくなってしまっているということ。

オ ありあわせのものでしのがないといけないので、必然的に考える習慣がつくということ。

問六 ―線4「どうすれば物の本当の姿が見えるのか」とありますが、筆者はその答えをどのように考えていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 世界を見えるようにするために、知識をたくわえて意識的に視界をこじ開けることによって。

イ 五感でとらえられないものをとらえるために、物自体を見る訓練をすることによって。

ウ 読書やインターネットで情報を集めて、今まで知らなかったことを知ろうとすることによって。

エ 想像の素材になる色々なことを知り、対象の背景にあるものを想像することによって。

オ 見えないものを見えるようにするために、すでに知っている何かをアレンジすることによって。

問七 ―線5「図鑑で見たのと実際に道端で見たのでは大違いです」とありますが、なぜですか。その理由を本文中から三十文字以内で抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問八 ―線6「ここには相関性がある」とありますが、どういうことですか。五十文字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

とも子ちゃんはお母さんと一緒に診察室に入り、北見先生の説明は始まった。お母さんは、濃い疲労^①の色を浮かべて、顔色も青白くなっていた。北見先生の次の言葉に信じられないというくらい驚いた。北見先生は、

「問題ないです」

と、言った。お母さんの目に熱がこもっていくのが分かった。それは怒りなのか困惑^②なのか安堵^{あんぷ}なのか分からない。もしかするとその全部かもしれない。先生は、説明を続けた。

「目、そのものに器質的な問題はありません。心因性視覚障害という病気なのですが、大丈夫、ちゃんと治りますよ」

と、北見先生は二人に穏やかな声を掛けた。お母さんは、北見先生の方に身を乗り出して詰め寄った。

「何が原因でこんな状態になるのでしょうか。娘の目は見えにくいんですよ。問題ないってどういうことなのでしょう」

北見先生は穏やかに首を振った。

「原因は分かりません。なぜこんなことが起こるのかというメカニズムも、はっきりとは分かっています。ただ心因性視覚障害で失明する子はいません。気付くと自然と治っていることがほとんどです。見えないと嘘^{うそ}を言っているわけでもありません。本人は本当に見えないと思っていますのです。慌てず様子を見て、いつも通り接してあげてください。ふとしたことがきっかけで治ることがあります」

北見先生がそう言うと、お母さんは暗い表情で話し始めた。

「なにか私に問題があるのですか。私の仕事のことを訊ねられましたけど。私がとも子にストレスを与えているとか。とも子にとって良くないことをしてしまっていたのかもと……。私のせいで心因性視覚障害を患ってしまったのでしょうか。私が厳しくするのが原因なのでしょうか」

¹ お母さんは声を詰まらせながら言った。言葉そのものが痛々しく自分を責めているようだった。北見先生は、お母さんを落ち着かせるように首を振った。

「そうではないと思いますよ」

北見先生はそう言うと、とも子ちゃんを見て、顔を近づけて、

「とも子ちゃん、先生のメガネどうかな」と、訊ねた。

とも子ちゃんは、じつと先生の丸いメガネを見て、首を横に振った。

「じゃあ、お母さんのメガネは？」

とも子ちゃんは目を輝かせた。質問そのものが、嬉し^{うれ}そうだった。

「どうしたのかな。先生に教えてくれるかな？」

とも子ちゃんは、お母さんの方をチラッと見た。それから大きな秘密^{ひみつ}を打ち明けるときのように、

「先生、あのね」

と、北見先生の方へ近づき、小さな手で可愛い輪を作り耳打ちをしようとした。北見先生は、とも子ちゃんの方へ耳を近づけた。とも子ちゃんがなにかを呟くと、先生は、微笑^{ほほえ}んだ。「なるほどね」と「やっぱりね」が混じった嬉しそうな顔だった。

なにが起こっているのか、遠目で見ている僕らには分からなかった。お母さんも心配そうに二人を見た。とも子ちゃんと北見先生だけが微笑んでいる。北見先生は説明を始めた。

「お母さん、とも子ちゃんが教えてくれましたよ」

「どういことですか」

「とも子ちゃんは、お母さんと同じようなお洒落なメガネが掛けたいそうです。仕事ができるお母さんのようになって、早くお母さんを助けてあげたいそうです。これが原因じゃないかな？ 大丈夫。きっと良くなります。心配は無用。明るく接してあげてくださいね」

と言った。それからとも子ちゃんの頭を撫でた。ポカンとしているお母さんに、北見先生はもう一度視線を合わせて、

「大丈夫」

と、はっきりと言った。お母さんはハッとしたように、とも子ちゃんを見た。瞳はこれまでで一番熱くなり、頬も耳たぶも真っ赤に染まっている。とも子ちゃんは照れくさそう⁴で、それでいて、とても満足そうな顔をしていた。

お母さんと、とも子ちゃんの目が合ったとき、ついにお母さんの瞳から涙が零れた。「良かった」それは小さな言葉だったけれど、彼女の本当の声だった。強気を装って頑張りすぎている女性の声ではなくて、とも子ちゃんを思う優しい声だった。

お母さんは、ハンカチで涙を拭いた後、とも子ちゃんを撫で、深々と頭を下げた。僕は「大丈夫」という言葉の力を感じていた。診察室は、いつもより白く明るく見えた。

僕は広瀬先輩を見た。先輩もこちらを見て微笑んでくれた。こんな笑顔を見たのは、初めてかもしれない。

「良かったね。ホッとしたでしょ」

広瀬先輩は僕に訊ねた。本当にその通りだ。僕は北見先生の診断を聞いて嬉しくなった。

「メガネって、こういうことだったんですね」

「メガネを掛けたいから、視力がなくなるってというのは、この症例では、よくあることなんだよ。大人からするとなんでもないことのようにだけれど、小さな子にとっては大切なことなんだろうね。頑張っているお母さんを助けてあげたいという気持ちと、大好きなお母さんと一緒にいたいって想いが、心因性視覚障害を作り出した……のかもしれない。この病気の心の問題だから、原因ははっきりとはしないけどね。でも、メガネの話やネームプレート⁵のことは、よくやったね」

「GPもできなかったですし、全然、実感がありませんが」

「北見先生も参考にしたと思うよ。だからすぐにGPの指示を出した。野宮君の言葉が先生の判断を助けたんだよ。検査器具を正確に使えることも大事だけれど、私たちの仕事はそれだけじゃない。患者さんのことをちゃんと見て仕事してたつてこと。それもすごく大事だよ」

僕は照れ隠しに、少し遠くにいるとも子ちゃんの方を見た。とも子ちゃんの瞳は輝いていた。瞳の内側にある光が眩しかった。完璧には程遠い。でもなにかが自分にもできたのではないかと、少しだけ思えた。

「不器用だけれど、患者さん想いで優しいっていうのは、野宮君のいいところだね。これからは頑張つてね」と言つて、検査室の奥に消えた。僕はその後ろ姿をじつと見つめていた。剛田さんの言うように、見とれちゃっているのかもしれない。

頑張ろうと素直に思った。

僕にもここで、できることがあるのかもしれない。

問一 線①⑤の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 線 a・b の語句の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a	目を輝かせた	{			
		ア	驚いた表情になった		
		イ	喜びが表情に出た		
		ウ	にらむように見た		
		エ	じつくりと見た		
		オ	ごまかそうとした		
b	耳打ちをしようとした	{			
		ア	小声で話そうとした		
		イ	耳をたたこうとした		
		ウ	独り言を言おうとした		
		エ	大声で叫ぼうとした		
		オ	口止めしようとした		

問三 線 1「お母さんは声を詰まらせながら言った」とありますが、このときの気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア とも子ちゃんの目が見えにくくなったのは自分のせいだと責められてとまどう気持ち。
イ とも子ちゃんが心因性視覚障害を患った原因をごまかされて不満に感じる気持ち。
ウ とも子ちゃんの目が見えにくくなった原因が説明されないことに対して怒る気持ち。
エ とも子ちゃんの目が見えにくくなった原因は自分にあると思っ自分責める気持ち。
オ とも子ちゃんが心因性視覚障害を患った原因は自分にあると言われて悲しむ気持ち。

問四 線 2「なるほどね」と「やっぱりね」が混じった嬉しいような顔だった」とありますが、とも子ちゃんが心因性視覚障害になった原因は何だと先生は推測していたのですか。本文中から四十五字以内で抜き出し、最初と最後の三字を抜き出しなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問五 線 3「北見先生はもう一度視線を合わせて、『大丈夫』と、はっきりと言った」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 回復すると言ったものの自信が持てなくて、自分に大丈夫だと言いつけようと思ったから。
イ 回復すると信じてもらえないのが悔しくて、お母さんを無理にでも納得させようと思ったから。
ウ 回復することを自信を持って伝え、念押しすることでお母さんを安心させようと思ったから。
エ 回復できるかどうか分からないが、とりあえずお母さんに了解してもらおうと思ったから。
オ 回復できないかもしれないが、興奮しているお母さんの気持ちを落ち着かせようと思ったから。

問六 線 4「ついにお母さんの瞳から涙が零れた」とありますが、このときのお母さんの気持ちを七十字以内で説明しなさい。

問七 線 5「先輩もこちらを見て微笑んでくれた」とありますが、広瀬先輩は仕事をする上で検査器具を正確に使うこと以外にどのようなことが大事だと言っていますか。二十字以内で答えなさい。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（出題の都合により、一部表記を変えた部分があります。）

（今はじき鎌倉の大臣殿が京に上られることが決まった。）
 故鎌倉の大臣殿の、御京上あるべきに定まりける。世間の人、内々歎き申しけれども、事に顕れて申す事なかりけり。さすが
 （人々の嘆きになるのではないかと）
 人にの歎きにやと思ひ給ひて、人々、京上あるべしや否やのひやうぢやうありけるに、上の御気色を恐れて、子細申す人なかりけ
 （鎌倉の大臣殿の様子を）
 り。故筑後前司入道知家、運參す。この事意見申すべきよし、御気色ありければ、申されけるは、「天竺に師子と申す獣は、
 （言い立てる人はなかった）
 （すべての）
 （ださうですが）
 （他の獣を傷つけようという気持ちはなくとも）
 一切の獣の王にて候ふなるが、余の獣を損ぜんと思ふ心は候はねども、そのこゑを聞く獣は、みな肝失ひ、或は命絶え候ふとこそ
 （命を失うと承っております）
 承れ。されば、君は人を悩まさんと思しめす御心はなけれども、人の歎き、争か候はざらん」と申されければ、「御京上は
 （京に上るのは）
 （思い留まつた）
 （万人の心を自分の心とする）
 留まりぬ」と仰せありける時、万人悦び申しけり。「聖人は心なし、万人の心をもて心とす」と云へり。人の心の願ふ所をまつり
 （天下泰平、国全体が穏やかに治まるのである）
 ごととす、これ聖人の質なり。賢王世に出づれば、賢臣威をたすけ、四海静かに、一天穏やかなり。
 （『沙石集』による）

問一 線 a「思ひ」・ b「ひやうぢやう」・ c「こゑ」を現代仮名づかいによる表記に書き改めなさい。

問二 線 1「事に顕れて」・ 4「肝失ひ」の文中における意味として、最も適當なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---------|---|-------|---|
| 1 事に顕れて | ア 悪い噂を立てて
イ 人を巻き込んで
ウ 大げさに誇張して
エ 機会をうかがって
オ 直接口に出して | 4 肝失ひ | ア 喜んで
イ 興奮して
ウ 驚いて
エ 悲観して
オ 迷って |
|---------|---|-------|---|

問三 線 2「子細申す人なかりけり」とありますが、なぜですか。最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 勝手に京に上るのが決まっていたことに呆れたから。
 イ 結論の出ない会議で発言しても無駄だと思ったから。
 ウ 知家入道が会議に遅れてくることにいらだったから。
 エ 鎌倉の大臣殿の機嫌を損ねたくはなかったから。
 オ 世間の人々の悲しみの深さに衝撃を受けたから。

問四 線 3「師子と申す獣」にたとえられているものを本文中から七字で抜き出して答えなさい。（句読点等記号も一字に数える。）

問五 本文の内容として最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 鎌倉の大臣殿は評議會を長引かせないようすることで、参加した人々に嫌われないようにしたいと考えた。
 イ 鎌倉の大臣殿は自分が京に上ることを世間の人々は望んでいないと気付き、人々の思いを尊重しようと考えた。
 ウ 鎌倉の大臣殿は京に上るためには世間の人々からの支援が必要なので、事を荒だてるべきではないと考えた。
 エ 鎌倉の大臣殿は京に上りたいという自分の意志よりも、強大な権力を持つ知家の決定を優先すべきだと考えた。
 オ 鎌倉の大臣殿は世間の人々の願いを無視した結果、残忍な心が自分に芽生えてしまうのを避けたいと考えた。

$$\begin{array}{c} | \\ \infty \\ | \end{array}$$
